

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年8月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第789号 (8月号)

二〇二四年 日本カトリック平和旬間 (八月六日～十五日)

一九八一年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と述べられました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もつとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。

那覇教区にあつては、沖縄の終戦記念日である六月二十三日に、小緑教会から魂魄の塔まで、約十五キロの行程を犠牲となった方々の安息と平和を願い、祈りのうちに巡礼を行っています。そして、毎年八月十五日には、糸満市摩文仁の平和祈念堂において、沖縄県内の諸宗教の方々と当番を決めて共に集い、平和の祈りを捧げています。今年は聖公会の皆さんが先導して祈りが捧げられます。共に心合わせて平和を願ひ祈りましょう。

平和旬間には毎年日本カトリック司教協議会会長談話が発表されています。

今年も七月十九日に日本カトリック司教協議会会長菊地 功カトリック東京大司教が「無関心はいのちを奪います」を発表、六つのテーマで談話を記しておられます。

一、七十九年前の「過ちは繰り返させぬから」の誓いは

二、終わらなき無防備な市民の犠牲

三、無関心のグローバル化

四、「希望の巡礼者」への招き

五、神の定めた秩序の妨害

六、平和を求めるシノドスの旅

わたしたちは過去の過ちに謙遜に学び、その過ちを繰り返さないように努めることができるはずで、幾たびも目撃してきたいのちに対する暴力を止めることができるのは、わたしたち自身です。

「平和旬間」にあたり、この世界で起こっているいのちに対する暴力を止め、神の望まれる秩序の実現のために、総合的な視点から取り組みを強めていくよう呼びかけます。無関心はいのちを奪います」と談話を結んでおられます。

八月十五日は「被昇天の聖母」の祭日でもあります。聖母と共に平和を願ひ祈って参りましょう。



「沖縄平和祈念堂」(左奥)と「平和の礎」(写真手前)、「沖縄県平和祈念資料館」(奥の赤瓦の建物)



“TOGETHER WE”

By: Mercy Cristobal – Caritas Okinawa

“Together We” is the campaign name of Caritas Internationalis that was launched in December of 2021 by His Holiness Pope Francis. This campaign has a three-year phase; the year of awareness in 2022. 2023 is the year of action and this year 2024, the year of blessing at the same time the closing year. In Okinawa, through Caritas Okinawa of the diocese, we have cooperated in this three year journey.

In 2022, the year of awareness, we have prepared a study program for kids in the four parishes within Naha city. The program’s aim was to instill to our younger generation on how to care for our environment in simple ways. The children were given an activity to “see, judge, act” as their model to evaluate what they can possibly do in their own little way.

In the year 2023, the year of action, Caritas Okinawa analyzed what we can do for this year. We came up with the idea of a beach cleaning project, considering the beautiful beaches which are part of Okinawa’s treasure. We have taken action and decided that this will be an ongoing project of Caritas Okinawa’s yearly program.

This year 2024, since this is the year of blessing and culmination of this campaign we came up with the idea of inviting the bishop in-charge of Caritas Japan, the current ordinary of Niigata diocese His Excellency Bishop Narui Daisuke, SVD to share about the Role of Caritas Japan and the Diocese in the Church ministry of Charity on August 25, 2024. Furthermore, to give emphasis on the closing of the “Together We” campaign, there will be a Holy Mass at Asato Catholic Church after the talk of Bp. Narui Daisuke, SVD. As the slogan says “Together We”, during this mass we ask the cooperation of everyone in the diocese to make this an opportunity to be together in praying and acting on how we can be all part of the **“Culture of Care”** that makes no boundaries on who or what are our backgrounds. Together we can make a difference if we act now.

2022 Year of Awareness
Kids Environment Study



2023 Year of Action
Beach Clean Project



2024 Year of Blessings


2024 Photo Exhibit

Yonabaru Catholic Church





Shuri Catholic Church






「ともに歩むミサ」

TOGETHER WE MASS



成井大介司教様
新潟教区司教
カリタスジャパン担当司教

14:00 講話「カリタス - 教会による愛のわざ」
教区とカリタスジャパンの役割
Caritas “Ministry of Charity”
The Role of the Diocese and
Caritas Japan.

15:00 「ともに歩むミサ」“Together We Mass”

日程: 2024年8月25日(日) August 25, 2024
場所: カトリック安里教会 Asato Catholic Church



祈りの巡礼

セクウェラ・ナビン・ジョセフ神父

普天間教会 主任司祭



みましょう。「祈り」も「巡礼」も、神様に出会うことに変わりはありません。まず、「祈り」について考えてみましょう。

私たち、神を信じる者にとって、祈りはとても大切な不可欠な行いです。祈りによって、個人の生活、病、教会との関わり、ひいては世界における災害や戦争などに対して、神の助けを願い求めます。祈りを通して、祈りの持つ力を再発見し、信仰の

り、愛の深まりである」と教えています。聖アウグスチヌスも「祈りは、心の深い会話である」と述べています。

イエス様は、祈りにについて求める弟子たちに「主の祈り」を教えます。その祈りの中で、「私たちの父よ」と主に呼びかける私たちは、単なる願いではなく、親子の関係を表します。神を「父よ」と呼ぶ親愛の中に、父の声に耳を傾けることの大切さも含まれます。「罪を許してください」と祈る時、「私も人を許します」と約束の祈りを捧げます。それは兄弟愛の実践によって神様の心に近づく祈りです。イエス様は話します。「まず兄弟と仲直りをし、その後祭壇に供え物を捧げなさい」(マタイ五・23、24)。祈りは、自分の足りなさを神様の前で素直に認め、許しをいただき、今ある自分は神様のおかげであることを知り、感謝を忘れずに祈ることです。

神様の道は、教皇フランシスコも言われるように「謙遜、へりくだりの道」です。神様は言葉ではなく心を見ておられ、きれいな心で祈ることを求めておられます。

「巡礼」について考えてみましょう。巡礼は、神様に出会うために行われる旅であり、目的や精神的な探求のために行われる旅を指します。真の巡礼者とは、外の道を

歩む者よりも、心の中で神を求める者です。

世界にはさまざまな宗教があります。ユダヤ教では、年に一回エルサレム神殿に行き、生贄を捧げ、神様と出会うことを聖なる務めとしています。イスラム教では巡礼は聖なる務めであり、人生に一度は聖地に行くために貯金し、聖地へと旅立ちます。

巡礼とは、自分の心を解放し、神の存在と愛の謎を発見する旅です。祈りの巡礼は信仰の旅です。祈りの巡礼に志向する信者が、信仰を深め、神との親密な関係を築くために特定の聖地や聖所を訪れることには以下の意味があります。

五、異文化との触れ合い…新たな環境や文化に触れることで、自己の信仰や人生の目的について深く考える機会が提供されます。

六、共同体の結束…集団で聖地を訪れ、共に祈りを捧げることによって、信者の共同体の結束を強める重要な行事となります。

七、信仰の共有と支え合い…信仰の共有や互いの支え合いが促進されます。

八、神とのつながりの強化…祈りの場の体験によって、神とのつながりがより身近に感じられるようになります。

イエス様のように、祈りの巡礼を大切にしましょう。教皇フランシスコは、「氣を落とさずに絶えず祈り、神様の心を揺り動かすまで祈り続けなければなりません」と伝えていますが、それは、イエス様が弟子たちに教えたことでもあります。フィリピ四・6でも「どんなことでも思い煩うのはやめなさい。何事につけ感謝を込めて祈りと願いを捧げ、求めているものを神に打ち明けなさい」と教えています。

祈りを巡礼として、信仰を持って日常を主に捧げ、与えられた恵みに感謝しながら謙遜の中で祈りの巡礼の道を歩みましょう。

二〇二四年一月二十一日、教皇フランシスコは、二〇二五年を「安息の聖年」と位置づけ、二〇二四年はそれに向けた準備の期間として「祈りの年」と宣言しました。また、「安息の聖年」のテーマは「希望の巡礼者」です。「祈りの年」とは、「祈りの偉大な価値と個人生活、教会、世界における祈りの絶対的な必要を再発見することに捧げた一年である」と述べられました。

喜びを得ます。そして新たな信仰、新たな人生を再発見し、教会や人々への奉仕へと導かれます。

祈りは、私たちが愛してくださる神様との関係性、神様との対話の中で心の安らぎや内なる平和を求める手段として行われます。ヨハネパウロ二世も「本当の祈りとは、神との対話の中で、神様との関係を深めていく信仰の根源である」と述べています。

2024年7月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2024年7月2日(火) 10:00~12:00 於・安里教区センター。

1. 報告及び連絡事項: 司会はデニス神父が担当。

- ・ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
- ・前回(6月会議)の報告を新田が行い、サマーキャンプの議事が抜けているのを加えて訂正するよう要請があり、訂正の上、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定
 - ーサニー神父、6/3~7/5、3教区合同黙想会出席、その後、休暇。
 - ーフランシス神父、6/24~7/26休暇 ベトナムへ。
 - ーヨアキム神父、7/2~8/2休暇 ベトナムへ。
 - ーブイ神父、8/19~10/3休暇 ベトナムへ。
 - ー藤澤神父、8/19~8/31、休暇と黙想会 東京他。
 - ー古川神父、8/26~8/31黙想会 東京。
 - ーウェイン司教、7/16~7/19、第一回臨時司教総会のため、潮見へ。
- ・6月23日の慰霊の日の平和巡礼について、ウェイン司教と津波古事務局長と新田がそれぞれ報告と感想を述べ、今後も継続して巡礼を行っていくことが確認された。各司祭たちからも様々な意見が述べられ、取り組み方はいろいろあると思うので、多くの人の意見を伺いながら、今後の方向性を模索していきたい旨、ウェイン司教が総括された。
- ・小祿教会で行われたローランド神父の追悼ミサについて、地区長のマキシム神父が来客で不在のため、ウェイン司教から報告が行われた。またこれに関連して、基本的には教区で奉仕する現役の司祭と教区司祭等の訃報等についての知らせは教区が行い、それ以外の修道司祭等は、それぞれの修道会から通知されるよう説明された。また、先に召された先輩司祭たちの帰天日などを『南の光明』誌でお知らせしてはどうかといった意見も出された。
- ・文化センターの今後の活用について、教区の広報やカリタス・沖縄の活動ができるよう有効利用していくよう提言があった。
- ・カリタス・沖縄担当のマーシーさんから、8月25日(日)にカリタス・ジャパン担当司教の成井司教(新潟教区)を招いて「Together We キャンペーンの集い」が行われることが報告された。安里教会を会場に、午後2時から講話、午後3時から「ともに歩む」をテーマに成井司教主式でミサが捧げられる。
- ・沖縄宗教者の会が毎年8月15日に行っている「祈りと平和の集い」について、担当のクレバー神父から報告が行われた。毎年8/15日午前10時から、摩文仁の平和祈念堂で行われているが、今回は聖公会が担当して、高校生の平和メッセージが行われる予定であること等が報告された。
- ・6月に行われた3教区合同黙想会について、ウェイン司教から報告が行われた。大分教区が主催した今回の黙想会は、さいたま教区の山野内司教が講話を担当された。参加した教区司祭たちもそれぞれに感想を述べ、シノドスに合わせて分かち合いの時間が設けられ、意義深い黙想会であったことが報告された。大分教区からの会計報告もなされ、残額は次回担当の鹿児島教区へ引き継がれることが報告された。
- ・古川神父と津波古事務局長から、有馬神父の元気な様子が報告された。現在の様子と今後について入所施設側との面談が行われ、緊急の場合の対処方法の確認やホームドクター契約などを行った。施設での面会も可能ではあるが、認知機能の低下により人物の認識が難しいため、いつもお世話している方がいる時間帯でないと不安を与えかねないので、あらかじめ古川神父を通じて連絡を取るよう要請があった。
- ・「シノドスの教会を目指して: 日本のカトリック教会の挑戦」という文書が司祭たちに配られているが、信徒も読むことができるよう掲示板に貼って案内するよう要請があった。
- ・広島教区からの平和旬間の案内のポスターや、「世界宣教の日」の教皇メッセージが届いており、司祭たちにくばられているが、これらは司祭が単に持ち帰るだけでなく、小教区の掲示板に貼って、信徒たちも読むことができるよう配慮して欲しい。
- ・7月の第2日曜日は教皇庁によって「船員の日」と定められ、世界中の司牧者、信徒に船員たちのために祈るよう呼びかけられている。様々な掲示物もあると思うが、教会として必要な掲示物は、信徒たちにも読むことができるよう配慮をお願いしたい。
- ・以上のような司祭会議等での配布資料には、他教区や中央協議会から出されるお知らせも含まれており、必ず掲示板に張り出して、信徒の関心に配慮するよう強く要請された。
- ・7/20、韓国から30名前後の若者たちが那覇教区を訪れる。10/18から20にかけて韓国で開催される若者たちの集いに、沖縄からの参加を呼び掛けるための来沖であるので、彼らと交流できるよう小教区の若者たちに呼び掛けて欲しい。

2. 審議事項

- ・黙想の家の使用については、事前に教区事務所に申し込み、ブイ神父や管理人の下地さんとの連絡調整をもって可否を判断する。建物は日帰り利用のみで、宿泊は不可とする。
- ・サマーキャンプについて、7/11に申し込みを締め切り。7/13にキャンプ前会議をビーチで開催予定。7/20ヘルパー研修および女性の会との調整会議。ベトナム人青年たちがビーチの建物の塗装作業を行う。7/27泡瀬教会男性信徒による害虫駆除作業。泡瀬と石川の幼稚園からキャンプでの使用のためテントを借り受ける。キャンプ旗も作成したので、キャンプの期間中、ビーチに掲揚することが報告され、ウェイン司教に祝別していただいた。石垣と宮古からの参加者については、従来通り教区に旅費半額を援助されるよう申し入れが行われた。また、小教区で集めて頂いているサマーキャンプ献金は早めに担当者に届けるよう要請があった。
- ・ウェイン司教の主日の予定。7/7安里教会ミサ。7/14宮古島教会ミサ。7/21安里教会ミサ。8/18首里教会公式訪問。
- ・11月の司祭会議は11/5~6日の予定で、宮古島で行うことが決められた。5日の午後2時から司祭会議を行うので、司祭たちは各自でチケットを購入の上、午前中で宮古に到着されるよう要請された。11月は「死者の月」でもあるので、教区で奉仕して亡くなられた司祭たちのためにミサを捧げてはどうかとの提案があり、検討課題となった。
- ・例年通り8月の司祭会議は休会とする。次回司祭会議は9/3日(火)、ミッションビーチにて午前10時から行われる。

二〇二〇年春、私をスカウトして沖繩に呼び寄せた社長は、いきなり給料を四〇%カットすると、理由も告げずに連絡してきた。勿論違法行為だったが、ブラック企業には見切りをつけて、こちらから辞めることにした。私たちは宜野座村に住んでいたのだが、宜野湾市に引越すことだけはすぐに決めた。その理由は、真栄原カトリック幼稚園があるからだ。一人娘には次年度から保育園ではなく幼稚園で三年間の教育を受けさせたかった。私自身は、若い時に大阪田辺教会で洗礼を受けていたが、家内は信者ではなかった。しかし、彼女は私以上にカトリック教育に魅力を感じており、「南に行けば仕事もあるでしょう」と樂觀的だった。その「予言」通り、

私は職安には殆ど通うことなく、間もなく那覇にある専門学校に職を見つけた。「お受験」を経て、娘は何とか入園を許された。当時園長だった故シスター寺田は愛媛県松山市のご出身だったが、私は松山教会と関係が深いドミニコ修道会の故ホビノ・サンミゲル神父様と懇意にさせていたでいた。その話をするとシスターも勿論よく神父様をご存知で、神様が繋いでくださったご縁にも驚き、感謝したものだ。

そして今度は「奇跡」が起きる。年度末に、幼稚園と同じ法人の沖繩カトリック

ク中学高等学校で、社会科教員の公募があった。かつて公立高校で教諭をしていた私だが、年齢的に言ってもはや一条校(学校教育法第一条にある学校。専門学校は含まれない)の教壇に戻るなど想像もできなかった。しかし感謝すべきことに、専任として採用していただけることになった。姑息な私は応募書類にカトリック信者であることを強調していたのだが、採用後は、実は長らく教会から離れており、ご聖体もいただいていたことが心苦しくなり、二〇二二年のク

たて軸よこ軸 故シスター寺田とのご縁

真栄原教会 堀之内達哉

リスマスの前に、校長であるフェルナンデス・デニス神父様に告解をお願いし、待降節のミサに与った。

何年振りのことだったろう。勿論、家内と娘も一緒だったが、娘が幼稚園に入ってから、シスター寺田を慕うようになっていた家内は、初めてミサに出席した後「私も洗礼を受けたい」と言い出したのだ。

私も、家内と娘に促されるように、毎週ミサに与るようになった。娘はいつもシスター寺田の横に座り、お絵かきをしたり、絵本を見たりしていたのだが、シ

スター寺田は園児としてではなく、まるで自分の孫を世話するかのよう、ミサの間ずっと相手をしていてくださったものだった。

家内の受洗までの「勉強」はシスター寺田がしてくださることになったのだが、残念なことにその頃からシスター寺田は、健康を害されてしまった。幼稚園も休まれるようになり、家内は娘を連れて修道院や琉大病院に何度もお見舞いに伺った。

態だった。「最初はどうなるかと思ったわ」とシスター寺田に笑われたものだが、卒園式の前には、神様のご加護と先生方のご指導のおかげで、娘は明るく面倒見の良い、心の優しい子供に育った。卒園を前に娘は、「園長先生、早く元気にならないかな」といつも口にしてた。病状が徐々に悪化していく中、家内と娘の霊名を決めてくださり、そして「せっかく本当の母と娘みたいになれたのに」と家



娘が一緒できた恵みとご縁に感謝

内の前で涙を流されたシスター寺田は、卒園式そして、家内と娘の洗礼式を目前に、薬石の甲斐なく、天に召された。後を追うようにホビノ神父様も帰天された。

シスター寺田の出身地の名産である伊予柑をサンエーで見つけたので、それでマーマレードを作って持参した時には、「大事に食べるわね」ととても喜んでくださったことが思い出される。娘の卒園式にはきてくださるだろう。その願いをこめて、私たちはミサのたびにご快癒を祈っていた。

娘は自由奔放で、入園当初は集団行動がなかなかできなかった。先生の指示を聞かず、好きなことをしているような状態だった。この四月から沖繩カトリック小学校に進学した娘は、毎朝私と一緒に通学している。ある朝空を見上げ、急に寂しそうな顔をして、「どうして園長先生は死んじゃったんだろうね」と呟いた。私達だけではなく、娘の心の中にも、シスター寺田は今も生き続けていらつしやるのだろう。そして、今も見守ってくださいているのだと、そのご縁に感謝し続けている。

本の紹介

『いのちへのまなざし』以来となる、司教団文書の刊行（7月1日発売）

『見よ、それはきわめてよかった』

総合的なエコロジーへの招き 単行本（ソフトカバー） 教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』とともに暮らす家を大切に』に学び、神、他者、自然、そして自分自身との、調和ある関係を求めつつ生きていくよう呼びかけるとともに、「観る」「識別する」「行動する」という三段階を通じて、エコロジーについての理解を促し、実践へと招く。日本カトリック司教団から、すべての人へと向けられたメッセージ。

著者：日本カトリック司教団 判型：B6 判 並製
ページ：160 頁 ISBN：978-4-87750-251-5
発行：カトリック中央協議会



第4回「祖父母と高齢者のための世界祈願日（2024年7月28日）」の祈り

…日本では2024年9月15日…

※教皇フランシスコは、「この第4回祖父母と高齢者のための世界祈願日には、祖父母や高齢の家族に、優しい愛を示しましょう。自信を失い、別の未来が可能だという希望をもてずにいる人々を訪ね、ひとときをともにしましょう。切り捨てや孤独につながる自己中心的な態度に抗し、『わたしはあなたを見捨てません』と臆することなくいつて別の道を歩む人の、開かれた心と喜びの顔を示しましょう」とメッセージを送られています。

「親愛なるすべての祖父母と高齢者の皆さん、そして皆さんに寄り添うかたがたに、祈りとともに祝福を送ります」と。

主なる神、誠実なかた、

あなたは、わたしたちをご自分の似姿としてお造りになりました。

わたしたちを決して独りにすることなく、

人生のいかなる時も、ともにいてくださいます。

わたしたちを見捨てず、見守ってください。

わたしたちが自分自身を見いだし、

あなたの子であると思い起こさせてください。

みことばによってわたしたちの心を新たにし、

だれひとり見捨てられないことがないようにしてください。

愛の霊が、あなたの優しさでわたしたちを満たしてくださいますように。

旅の途中に出会う人に、

「あなたを見捨てません」と言えるよう教えてください。

愛する御子の助けによって、

わたしたちが友愛の心を失わず、

孤独の悲しみに屈することがありませんように。

新たな希望をもって未来に目を向けることができるよう助けてください。

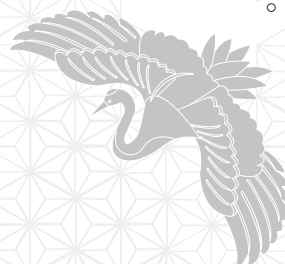
「祖父母と高齢者のための世界祈願日」を、

孤独のない一日、

あなたの平和の初穂に満ちた一日としてください。

アーメン。

（二〇二四年七月十九日 日本カトリック司教協議会常任司教委員会認可）



教区 NEWS 教会

初聖体の喜び

宮古島平良教会

「キリストの聖体」の祭日に、マリア下地莉乃葉さんが初聖体を受けました。教会のみなさん共々に神様の恵みのうちに祈り喜びを分かち合いました。



(編集子かさね通信員)

教会ピクニック

普天間教会

七月十四日(日)、普天間小教区で恩納村にある黙想の家(ミッシヨンビーチ)を利用して頂きピクニックミサを行いました。お御堂でのお祈りも心が落ち着きますが、自然の中でのミサは日常とは少し違う澄んだ気持ちになる事ができました。

ミサのあとは子供たちと恩納村の綺麗なビーチを満喫しました。仲里さんがカヌーを出して

下さり、カヌー初体験の子供達も大はしゃぎ。お昼からは知念さん、藤田さん、喜武屋さんが中心となって調理して下さったやきそばやホットドッグなどの料理と、皆さんが持ち寄って下さったおにぎりでお腹を満たし、全員参加(笑)のゲーム大会で親睦を深めました。当日は天気にも恵まれ、とても暑い一日でしたが、暑さ対策や、ビーチでの子供達の見守りなど、みんなで協力して行いました。やっぱりみんなで一つになるのはいいですね！



合い、食卓を囲み、夏の海で自然の恵みを感じ、とても素敵な日曜日をお過ごし事ができました。いつも中心となって普天間小教区を盛り上げて下さる信徒会の皆様、ご協力頂いた信者の皆さん、そしてナビーン神父様、シスター、ありがとうございます。暑い日が続いていますが、来年の夏も楽しみます！

(川村拓也)

韓国から青年たちが教区を来訪

七月二十日、韓国から三十名前後の若者たちが那覇教区を訪れ、平和学習を行った。ウェイ



ン司教と共にミサを捧げ、ウェイン司教が沖縄の歴史や教区の現状を報告して、韓国の青年たちに分かち合った。

十月十八日から二十日にかけて、韓国で開催される若者たちの集いに、沖縄の若者たちも参加されるよう呼びかけを頂いた。

サマーキャンプ前清掃

サマーキャンプを目前に控えて、去る七月二十八日に教会ビートで清掃作業とテント設営が行われた。本島内の各小教区から、キャンプ長・ブイ神父様の呼び掛けに応じて、百名余の信徒たちが集まり、作業に汗を流した。

作業後は、おやつを頂き、子どもたちの安全と健やかな成長を願って祈りが捧げられた。





教皇フランシスコは、2月11日、新福音化推進評議会議長サルバトーレ（リノ）・フィジケラ大司教に宛てた書簡を発表し、2025年の聖年の開催を告知しました。また、「主の昇天」を祝った5月9日、2025年の聖年を布告する大勅書「Spes non confundit（希望は欺かない）」を発表しました。

那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020

火・水・木
13:00～17:00

お詫びと訂正
先月号で初聖体おめでとうございませう、とお伝えした名護教会の二人、洗礼者ヨハネ比嘉悠月さん、ロヨラのイグナチオ比嘉海空虹さんは、ウエイン司教訪問時の五月十二日に堅信の秘跡を受けられたものでした。訂正してお詫びいたします。
また、初聖体の記事は石垣の教会ニュースを誤って平良教会として掲載してしまいました。ペロニカ神保穂香（ほのか）さん、マザーテレサ神保文香（あやか）さん、フランシスカ神保智香さん、フランシスカ小寺里奈さん、エラスムス石垣信太郎さんは石垣教会の初聖体の方々です。訂正してお詫びいたします。

計 報

◆石垣教会

クララ 宮良 信 様
2024年4月28日帰天 享年100歳
パウロ 河口 英昭 様
2024年5月14日帰天 享年97歳

◆開南教会

マリア スコラスチカ 仲程 芳子 様
2024年7月4日帰天 享年93歳



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日（申込、相談など）
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日（緊急対応含む）



葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

